

## 令和7年度舟着茶話会グループワークまとめ

テーマ 舟着地区のみんなが集える場所づくり ～皆さんの活動から考えていく、拠点づくり～  
1部：市から公共施設の現状の説明 2部：グループワーク



開催日 令和8年1月25日（日曜日）  
会場 舟着小学校体育館  
参加者 40人+関係者6人

舟着地域の皆さんの生活が楽しくなるような、地域活動が活発化するような場所づくりを、地域住民の活動に視点をおいて話し合いました。

### 1 つながり・交流

- 親同士のつながりが、子ども同士のつながりに発展する。親世代の交流が促される場所や機会があると良い。
- バザーを開催して活動資金にしたり、フードバンクを行い困っている人への手助けをしたい。これらを通して、交流が生まれる。
- 仲間集めが必要。また、年代や性別、地域を超えた多様な交流が必要。

### 2 趣味・活動・やりたいこと・楽しみ

- 過去に行われていたイベント（舟着こども太鼓大会、お楽しみ会、バザーなど）を復活させたい。
- パブリックビューイングなどで感動を共有ができる空間があると嬉しい。
- 釣り、ランニング、バレーボール、ゲーム、パン作り・・・、アウトドアからインドアまで、趣味仲間の輪を広げることができる場が欲しい。
- 移動動物園、二ホンミツバチの養蜂、めずらしい食材の料理教室など、普段できないことが行われる場や機会が欲しい。
- 舟着山の眺望を良くして、その眺望目指して人々が集まれる仕掛けづくりをする。

### 3 課題

- 今後、人口が減っていく。今から少しずつ費用面など様々な面か考えていくことが大切。
- 70歳代以上の方々は、集う場所に行くこと自体が大変。イベントがあっても行くことが難しい場合がある。また、通院やデイサービスで行けない人もいる。
- 高齢化による人手不足。PTA、区、組の“お役”の長期化が問題となっている。
- 活動の場を支える費用を捻出しないとイケない。お金がこの地域に落ちる仕組みづくりが必要である。
- 消防団や地域協議会など、一部の人に“お役”が集中している状況。会議時間を短縮して、効率的に参加できればと思う。
- こどもの遊ぶ場について、以前行われていた地域の活動がコロナ以降中止となっている。危険性などがあると、どんどん縮小される風潮がある。

### 4 場所・施設

- 人が集うためには、楽しめることが実現できる機能や場所が必要。（グラウンドゴルフなどができる広い場所など）
- 今はインターネットが飛躍的に発展している。現実世界の場所が無くても、オンライン空間でつながることもできる。
- 話すことは刺激となり、健康にも良い。気楽に集える場所があると良い。
- 舟着小学校の児童数が減ってきている。空き教室を地域で使いたい。また、旧吉川こども園の利活用もしたい。
- 児童館横のビオトープなど、既存の場所をより広く周知して、多くの人に集ってもらいたい。そして管理していく仲間も増やしたい。
- 生徒数は減っているが、小学校はなるべく残したい。
- 拠点というよりもコンビニが欲しい。コンビニがあれば色々な人が集まる。買い物支援にもなる。お金の大切さ、お金の使い方も学べる。高齢者の食事支援にもなる。小学校付近にあると利用しやすいのではないかな？
- 子どもの遊び場が鳥原児童館か小学校しかない。また、小学生は学校が終わってから、一度家に帰りもう一度学校に集合して遊んでいる。旧吉川こども園を活用できないかな。
- 舟着地域全体の最終的な拠点の選定が重要かもしれない。

### 事務局まとめ

グループワークの中で、“交流”というキーワードが多く出ました。現在は、行政区単位や個人単位で多くの活動をしています。人口が減少している中でも活動を維持・発展していくためには、舟着地域全体で捉えていく話が出ました。従来の活動グループの単位を“点”とするなら、今後は地域全体を“面”で捉え、活動同士を緩やかにつなぐ上位団体の必要性があると感じました。小さな活動を支え合う仕組みが、役員負担軽減にもつながります。

集う場と活動の関係性は車の両輪のようなものです。今回の茶話会では、地域活動から話がスタートし、集う場（塩沢構造改善センター、舟着小学校空き教室、旧吉川こども園、メンバーの庭や車庫・・・）の話へと広がりました。